

## 会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成25年度 第16回
開催日時	平成25年11月8日（金曜日） 午後6時30分から8時30分まで
開催場所	田無庁舎 5階 501会議室
出席者	出席：大竹委員、小澤委員、坂元委員、島委員、高田委員、谷関委員、照沼委員、 牧田委員、渡辺委員 事務局：浜名課長、日下部課長補佐兼係長、渡邊主査 欠席：渥美委員長、石崎副委員長、大野委員、後藤委員、布施委員
議題	1 第15回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について 2 西東京市第3次男女平等参画推進計画（素案）について 3 第2次男女平等参画推進計画各課実績（平成24年度）評価について 4 その他
会議資料の名称	「配布資料」 資料1 第15回男女平等参画推進委員会会議録（案） 資料2 西東京市第3次男女平等参画推進計画（素案） 資料3 西東京市第3次男女平等参画推進計画策定スケジュール 資料4 平成24年度第2次男女平等参画推進計画各課実績
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
会議内容 （開会） 委員長、副委員長欠席のため、西東京市男女平等参画推進委員会条例第9条に「委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める」とあり、委員長の推薦により前委員長である委員に議長をお願いし、委員の進行のもと討議を行った。  <b>議題1 第15回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について</b> 事務局： 2ページ下から8行目「女性相談で対応する」を「女性相談でも対応する」と修正する。 （議事録を承認）	

## 議題2 西東京市第3次男女平等参画推進計画（素案）について

○事務局：

資料2、3を説明。

事務局：

部長とともに副市長、市長に報告を行った。議会には企画政策課を通じて報告を行った。

委員：

次回12月13日の委員会で、12月10日に終了するパブリックコメントの報告を行えるのか。

事務局：

パブリックコメントは1か月間行っているため、いただいたご意見だけになるが12月13日に出す予定である。検討は1月10日の委員会で行う。

委員：

1月10日のパブリックコメントの検討は誰が行うのか。

事務局：

事務局で回答案を作成する。

委員：

3月の議会で策定が決まるのか。

事務局：

市長の諮問で計画案を作っている。パブリックコメント等で市民の意見を反映し、市長に計画案を答申として渡す。

委員：

市長に答申したもので策定か。議会は通さないのか。

事務局：

確認するが、議員もご意見があればいただくことになる。

委員：

イラストやコラムはまだ内容がないがよいのか。

事務局：

イラストやコラムについてパブリックコメントではご意見をいただかない。

委員：

インターネットで見られるということだが、実物はどこで見ることができるか。

事務局：

田無庁舎、保谷庁舎の情報公開コーナーで見ることができる。市民説明会ではご意見はいただかず説明にとどまる。ご意見はパブリックコメントでいただく。ご意見をいただく方法はパリテで受け付けるほか、メール、ホームページ、郵送などである。氏名は公表しないが匿名でのご意見は受け付けていない。

委員：

市民のご意見をいただきもっとよい計画になるといいと思う。説明会に友人、知人にご参加いただけるよう委員の皆さまからもお声をかけていただけるとありがたい。

委員：

指標はパブリックコメントの対象にならないのか。

事務局：

目標値についてはパブリックコメントではご意見をいただかない。

事務局：

公表しないのは目標値だけである。答申では数値を入れるがパブリックコメントでは数値を入れていない。市民の方に目標値についてご意見をいただいても対応するのは難しい。指標を掲載しているので、指標の内容についてご意見をいただきたい。

委員：

81 ページの項目と 23 ページの項目が一致していない。

事務局：

前回の委員会では女性相談は課題Ⅱ-2、Ⅱ-3の指標としたいとご意見をいただいたことから、女性相談は2つの課題に共通の指標としている。

委員：

パブリックコメントで意見がたくさんでたときにどう反映していくのか。

事務局：

いただいたご意見の内容による。事務局で回答案を作成し、1月の会議でご検討いただく。

委員：

パリテの企画委員にもご意見をいただきたいと思う。では、この素案をパブリックコメントにかけるといことでご承認いただけるか。

(素案を承認)

### **議題3 第2次男女平等参画推進計画各課実績（平成24年度）評価について**

○事務局：

資料4と評価の進め方について説明。

委員：

グループに分かれて評価する事務局からのご提案だが、ご意見をいただきたい。また、AからDの評価は事務局で入れていただくか、自分たちで評価するか、事務局が入れたものはあくまでも基準としてさらに自分たちで評価するかなど、AからDの評価をどうするか。

委員：

事務局がすべてに精通しているのか。各事業の担当課自身の評価を元に事務局が評価するのか。

事務局：

各担当に聞き取りをしているわけではない。記載されているコメントと評価基準をもとにAからDをつける。

委員：

担当課はどう評価されているのか気になると思う。担当課自身の自己評価があるのではないか。

委員：

それが次年度の課題になるのではないか。

委員：

それぞれの担当課の自己評価を事務局はみているのか。

委員：

もし事務局で評価をいれるなら何を基準にするのか。

事務局：

昨年度は各課の実施状況をみて事務局でAからDの評価をつけた。今年度も事務局でつけるとすれば前年度の評価をもとに評価することになる。

委員：

あえて事務局で評価をつけてくださる意図は何か。

事務局：

ボリュームが多いので、事務局としてはたたき台として評価をつけ、皆さんには議論に集中していただきたいと考える。たたき台があったほうが見やすいのではないかな。

事務局：

委員のご発言は、各課が自己評価したものを参考にしながら、委員の皆さんで評価をつけたいということか。

委員：

事務局だけで評価をつけることでよいのかということだ。

事務局：

そのようなご意見をいただいたことを次年度以降の検討材料としたい。

委員：

1年間かけて評価できる年は各担当課にお話しを伺いに行ったりすることもできるが、今年度は計画作成に時間をつかったため、残り5か月でどのように評価をまとめたらよいか。おひとりずつご意見をいただきたい。

委員：

ゼロから評価をつけていくのは難しい。事務局で入れていただきそれを基準にする方がわかりやすい。

委員：

全部の事業の内容が見えているわけではないので、事務局の力を借りるしかないが、各担当課がどのように評価しているのか気になる。

委員：

事務局でつけていただきたい。

委員：

まったくわからない分野もあるので、たたき台がある方がありがたい。

委員：

昨年度はたたき台があり参考になった。

委員：

担当部署による自己評価が必要と思うが、評価の仕方については今後の検討課題にするとして現状時間もないので今回は基準を入れてほしい。

事務局：

事務局の評価ならば意見をいいやすいというものもある。

委員：

自己評価だと A と評価してきたものを、B と評価するのはやりにくい。

委員：皆さん、事務局で評価していただくという意見だが、自分は「白紙」の状態からつけたいと思った。自分たちでつければ評価のコメントにも反映できるだろう。担当課とのコミュニケーションツールにもなる。一度こうしてしまうと次年度も事務局がつけることになりかねないが、この委員会の役割は何か。専門家は専門家の立場で、市民は暮らしの中で意見を出す。意見を出すことが大事だと思う。しかし皆さんが事務局でつけることに賛成なので、今年度はそのようにするが、ぜひ、評価の文章で皆さんのご意見を出してほしい。

委員：

昨年度も事務局の評価に影響されずに評価できたので大丈夫だ。

事務局：

積極的なご意見をいただきたい。わからないところがあれば事務局で資料をご用意する。担当課に聞きに行く場合は、市民への情報提供は市の役割でもあるが、事務局を通していただいた方がスムーズなので、一声かけていただきたい。

委員：

進め方だが、昨年度と同じグループ分けでよいか。スケジュールはどのようになっているか。

事務局：

事務局から A から D の評価を入れたものを 11 月 12 日までにお渡しする。12 月 5 日までに A から D の評価について確認していただきたい。1 月の委員会で事業評価のコメントと領域別評価をしていただきたい。

委員：

12 月委員会では A から D の評価をし、1 月の委員会でコメントを検討しあうということだ。

委員：

グループに分かれて連絡係を決めていただき、分担と進め方を決めていただきたい。

事務局：

今回は欠席が多く、昨年度連絡係をした方が 2 人しかいない。次回までは今回出席した人の中で連絡係を決めてほしい。

委員：

昨年度はメールでやりとりした。

委員：

グループは昨年度と同じでよいか。グループに分かれて連絡係と分担を決めてほしい。  
(グループ分けを承認。グループに分かれ担当を決めた)

委員：

11 月 12 日までに事務局評価が届くので、各グループは自分の評価を入れて 12 月 5 日までに連絡係に送ってほしい。

委員：

評価のところで、26 ページの混合名簿について「男女の正しい考え」とあるが、それは何か。この文章でいくと、名簿を導入しないことが A になってしまわないか。

事務局：

一昨年と同じ文言があった。この事業は混合名簿を行うことを目的としているので、実施した場合が A となる。「正しい」の定義にあたるかどうかわからないが、混合名簿のままで健康診断をやったという事例があったそうだ。すべて混合名簿にすることがいいわけではない。行き過ぎた混合名簿を採用しないということだ。

委員：

行き過ぎたわずかな事例を過大に言っている。そうした事例がいくつあったか聞いてほしい。よくできた事例も一緒に出すべきだ。

事務局：

西東京市では小学校 19 校中 11 校で混合名簿を実施している。教育委員会は混合名簿を否定しているわけではない。

委員：

流された情報をどうとらえるか、メディアリテラシーをきちんとしないといけない。私たちが気をつけないといけない。

事務局：

計画の中では混合名簿の実施をうたっている。

委員：

「正しい考え方」などを書くからわからない。「男女平等に基づいた」としなければいけない。

委員：

これも含めて議論を深めていければと思う。

#### **議題 4 その他**

事務局：

次回の推進委員会は 12 月 13 日（金曜日）、102 会議室である。